

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	中町エコストーリー事業
事業主体 (連絡先)	中町商店街振興組合 長野県松本市中央 3-2-14
事業区分	(5) 環境保全及び景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,346,455 円 (うち支援金 : 1,074,000 円)

事業内容

- 中町で歩行者天国を行う6～11月の第4日曜に、以下を行うイベント「ホコ天×エコ展」を行った。
 - ・SDGs カードゲーム・蜜蝋ラップ/ロケットストーブ制作・薪割り等体験
 - ・まちづくり井戸端かいぎ・エコを語る会などレクチャやワークショップ
 - ・太陽熱温水器・ソーラークッカー・信州 Green でんき等の展示
 - ・気候変動の原因シール投票・市「もったいないクッキング」表彰式
 - ・フードドライブ・リユース食器の配布・地域産木材・有機野菜・地元の食材等の販売・エコフリーマーケット
 - ・エコ講談・ココリナ等ライブ演奏・書道パフォーマンス
 - ・「この店のこれがエコ！」キャンペーン・ハロウィンエコクイズウォークラリー・竹の風鈴を各店に展示
- 自転車を購入してレンタサイクル事業を始めた。

事業効果

- ・パフォーマンス系の集客事業には、毎回50～150名程の参加者で賑わった。ホコ天で通りを歩く親子連れ等が会場に足を運んでもらえる割合も昨年より増えた。その結果、エコ展全体では、1回の平均参加人数が延べ1000人程に増えた。
- ・「この店のこれがエコ！」には中町内の29店舗が参加。6店で買物や飲食をした人に渡すエコバッグは、制作した100個がなくなるなど、盛況だった。
- ・9月開始のレンタサイクルは、冬になる前は平均1日1台程度の利用があった(10～11月に51台)。
- ・新聞などのメディアにも取り上げられ、定期的なイベントとして周知され、出展希望者も増えた。書道パフォーマンスの作品はその後松本市役所のホールに掲載してもらえた。

今後の取り組み

- 2年間イベントを行ったことで、松本市の職員や市長・周囲の商店街・環境団体など外部から高い評価を頂いてイベントとして定着して来た。
- ・今後は、集客目的のパフォーマンスより、家族連れや将来世代などに体験を楽しく行ってもらい、展示も見ってもらうことと、中町内外のエコな商品の販売にも力を入れたい。
 - ・主催者である中町の店舗の関与をより増やすため、「この店のココがエコ」スタンプラリーの拡張や、希望店舗にバイオマスレジ袋等を販促用に配布・デジタル媒体の活用も推進したい。
 - ・イオンモール以外にも、縄手通りなどの周辺地域や松本市ともより連携して、広範囲に行きたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【エコ展会場の一コマ(気候変動の原因シール投票)

【目標・ねらい】

- ① 県と市の2050ゼロカーボン実現を市民が考える機会を商店街が設ける。
- ② 中町を先進的・サステナブルな商店街として全国にPR
- ③ 市・NGO・業者のエコ活動を市民にPR
- ④ 商店街内の意識も変革

※自己評価 **【A】**

【理由】ゼロカーボンに関するさまざまな催しを中町という場所で行ったことで、メディアにも取り上げられ、多くの市民に「エコ」を考えてもらうきっかけになった。「この店のこれがエコ！」ラリーが予想以上の参加者がいた。松本市や外部の団体から、エコ啓発の場として、高い評価を頂いた。